

2024（令和6）年度 重点目標自己評価・学校関係者評価結果

【本年度重点目標】 評価はA（十分）、B（おおむね十分）、C（やや不十分）、D（不十分）の4段階			
評価の観点	自己 評価	関係者 評価	成果と今後の課題・改善策
・文武両道を目標とした時間の有効活用を図る			
①生徒が自ら具体的な学習目標を持つことができるよう、教科指導と進路指導を行うことができたか。	B	B	・各授業で主体的に取り組めるグループワーク等の工夫が多く見られるようになった。 ・各科目の学習を受験の手段としか考えていない生徒が多いような感じがする。学問の本来の楽しさを生徒たちが感じられるような学習環境を作っていくことが必要だと考える。
②部活動や生徒会活動に積極的に参加しながらも、家庭学習の時間を確保できるよう環境づくりを進めることができたか。	B	B	・学習と特別活動との両立について努力を継続している生徒が多い。しかしながら帰宅時間が遅く勉強する時間が確保しにくいという相談もあり、部活等によっては時間が確保できない状況も少なからずあると思われる。平日は最低でも2時間は家庭学習の時間が確保できる環境をつくりたい。平日1日、休日1日の休養日を設けることになっているが大会の時期等により休日の確保が難しいこともあるので工夫が必要。
・多様な希望に沿った進路実現に向けたカリキュラムの改善に取り組む			
③キャリア教育の観点から、生徒の主体性を喚起し、協調的・発展的助言をすることができたか。	B	B	・探究活動ではテーマに関する情報収集の仕方やアポイントの取り方などを指導することでスムーズに活動が行えた。特に1年生の「松本探究」では将来の自分を想像しながらの職場訪問を企画する生徒が見受けられるなど充実した活動ができていた。 ・今後は更に積極的に生徒自身が将来を考えるきっかけを仕掛けていきたい。
④進路実現にかかわる有効な情報・資料等を的確に提供することができたか。	B	B	・進路実現について参考となる「進路の手引き」ができています。スマホやパソコンが苦手な保護者もあり、家庭でも親子でみるような冊子（ハンドブック）を作成してほしいという希望が出ている。検討したい。
⑤外部の講師による講演会等を実施し、生徒の進路意欲を喚起することができたか。	B	B	・外部講師の講演はもちろんのこと、本校の先輩である教育実習生の体験談も在校生にとって有益な情報であり講評であった。
・主体的な挨拶と清掃に取り組む			
⑥自然な挨拶が出来る校風をめざし、良好な人間関係を構築することができたか。	B	B	・全体的に気持ちの良い挨拶をすることができる生徒が多い印象である。職員からの挨拶や職員間での挨拶が波及していると考えられる。
⑦SDG s に対する意識を喚起し、無駄の削や、ゴミの処理量を減少させることができたか。	B	B	・ゴミ箱を小さくするなど工夫をすることで、ごみは減少している印象。 ・年毎比較できる客観的なデータがあればなお取り組みやすいと思われる
⑧全員が自主的に清掃を行えるよう徹底することができたか。	B	B	・全校的にしっかり清掃に取り組む生徒が多い印象であるが、中には積極的に行えていない生徒も一部見受けられる。 ・古い校舎だが、きれいに清掃し使用できている。
・安心、安全な学校作りを目指す			
⑨安心、安全の学校作りをするため、懇談会等を利用して状況把握をすることができたか。	B	B	・懇談会での情報共有や日常的な家庭への連絡などにより、保護者との連携はできていると思われる。 ・災害時における情報収集や連絡方法について生徒、家庭、職員間の連携が実際にしっかりとれるか不安もある。
⑩いじめ・体罰の未然防止のため、常に生徒・職員の意識啓発に努めることができたか。	B	B	・相談については迅速に対応するよう努力している。いじめや体罰以外にも悩みを抱えている生徒が多い。生徒理解についての研修会の実施も検討したい。

【学校関係者評価委員からの主なご意見】

- ・ 良き伝統が引き継がれており、必ずしも目に見えるものばかりではなく、雰囲気や気風といった校風が学校生活を送る生徒たちの姿に良い影響を与えていると思う。
- ・ 生徒たちの活躍が評価される学校運営ができていると感じる。
- ・ 市内の学校が探究セッションするなど他校との良い連携に期待している。
- ・ 同窓会としては、部活動で頑張っている報告はとてもうれしい。部活動で培ったものは社会に出てとても役に立つと思う。
- ・ 個人の意見としては、国公立進学率などを上げるよりも将来自分の進みたいところを目指しての大学進学であってほしい。これからの日本を背負っていく若者が有名な大学へ行くより、将来なりたい自分を目指した進学を選択してほしい。
- ・ とにかく、元気よく楽しく登校出来たら最高です。
- ・ デジタルが急速に発展し Web や SNS を通じていつでも気軽に情報発信やコミュニケーションがとれる時代になった。一方その便利なツールは凶器にもなる。メディアのリテラシーがついていけない状況がある。生徒たちの安全・安心のために SNS 上でのちょっとしたトラブルや不安について気軽に相談ができるホットライン的な窓口（担当）を置いてもらえるとよいと思う。最近報道を賑わせているコンプライアンスについても大人が甘く考えてしまい、対応が後手に回ったことが大きな問題となった事例もある。
- ・ 先生方の日頃のご尽力もあり、生徒の意識もよい方向にあると思う。
- ・ 挨拶等は、基本的な人としてのコミュニケーションの序章と考える。「目指す」という課題がなくとも当たり前でできるとよいと思う。